令和8年度 第1回 大和市立病院運営審議会（書面開催） 意見要旨

意見提出期間 令和8年7月27日（月）～8月6日（木）

意見提出者 楠原会長（医師会） 大橋委員（医師会） 木山委員（医師会）
堀口委員（市議会） 小倉委員（市議会） 梅下委員（利用者の代表）
川越委員（利用者の代表） 山本委員（学識経験者） 南渕委員（学識経験者）
内山委員（市長の認めた者）

【報告】地域医療支援病院の業務遂行状況に関する報告について

資料 地域医療支援病院の業務遂行状況

---

1 報告 地域医療支援病院の業務遂行状況について

資料の「地域医療支援病院の業務遂行状況」を用いて、意見・質問を求めた。

【質問】

1 共同利用について

2）高度医療機器等の利用実績

Q1：令和7年度に核医学検査、胃・大腸内視鏡検査の利用件数が多く増加した理由は。

A1：核医学検査の主な増加要因は、海老名市の医療機関からの検査依頼増加によるものです。
神奈川県央地区で核医学検査装置を保有している施設は、当院含めて「2施設」と少ないことから、検査装置を保有していない医療機関に対して、医師同行訪問を実施し、当院の強みを説明しております。お互いに顔の見える関係構築が図られ、依頼件数が増加したものと考えます。
また、胃・大腸内視鏡検査の増加については、市内にあるクリニックからの依頼が増加したことが主な要因です。

Q2：CTやMRIなどは一定の利用があるが、登録医療機関233施設が十分に活用できている状況と評価しているのか。また、利用が少ない医療機関に対して、どのような周知や利用促進の取組を行っているのか。

A2：登録医療機関233施設の中には、クリニックをはじめ急性期、回復期、療養病院、訪問診療クリニックなど様々な医療機能の施設にご登録いただいております。高度医療機器の共同利用件数や紹介受診の患者数がともに増加していることから、活用できているものと考えております。
引き続き、「医療機関訪問」や「メールマガジンによる定期的な情報提供」、「インターネットを利用したオンライン検査予約システム」など利用促進を図っていきます。

Q3：各検査とも当日依頼してすぐ実施できるものではなく、計画的に実施する必要があるものだと思料する。そのような状況下において、高度医療機器等の利用実績は年々微増しており、期日選定、人員配備など、患者や紹介医院、大和市立病院（現場の検査技師など）の苦労や工夫が想像される。これらについて、今後の展望（例えば予約を臨機応変とするなど）は考えているのか。

A3：検査対象者の状態や、求められる対応などを丁寧に聴取し、スムーズに検査が実施できるよう努めています。緊急的な検査依頼に対しても、極力柔軟に対応できるよう、利用枠の調整等にも努めており、引き続きこのような取り組みにより、高度医療機器を共同利用される医療機関及び患者様の利便性に資するよう、地域医療支援病院としての役割を果たしていきたいと考えております。

2 救急医療の提供実績

Q1：救急搬送患者数はほぼ横ばいである一方、搬送以外の患者数が減少しており、この要因をどのように分析しているのか。また、今後の高齢化に伴う救急需要の増加などに対する体制整備をどのように考えているのか。

A1：国が進める外来機能分化の推進により、患者が大規模病院でなくとも地域のクリニックで適切な医療を受けられるようなっていることが減少している要因と考えます。

また、救急医療に対しては、現状、体制の整備が図れておりますが、将来的に救急患者が増加した場合には他医療機関の協力が不可欠であり、地域全体で救急医療を担う必要があると考えます。

Q2：令和8年3月10日より県央4市（海老名市、座間市、綾瀬市及び大和市）において、消防指令センターの共同運用が開始されたことに伴い、4市による救急相互応援協定が締結された。このことにより、4市の救急隊が市域を超えて活動する機会が増加しているが、大和市以外の救急隊が大和市立病院へ患者を搬送する場合の応需体制は、現在どのように整理されているのか。また、消防機関以外（患者等搬送事業者など）による搬送についても、何らかの変更や整理が行われているのか。

A2：3市（海老名市、座間市、綾瀬市）からの搬送に対しても、医師が患者の状態によって受け入れ有無を判断しています。また、消防機関以外による搬送の場合でも、消防機関と同様の対応となるため、応需体制に変更はありません。

3 地域の医療従事者に対する研修実績

Q1：参加者数が増えた要因と、研修の成果をどのように評価し、地域医療の質の向上につなげているのか。

A1：7 月にお示しした令和7年度研修実績の数値に誤りがあり、正しくは、25 回・402人と減少しております。減少の理由としては、大和市医師会主催、当院共催による「病診連携を一層進める会」について、大和市医師会の意向により令和 7 年度開催が見送りとなったためです。

本会の見送りにより減少した研修参加者数は124人で、全体の減少数126人（528人→402 人）と概ね一致します。

4 紹介率・逆紹介率の実績

Q1：どちらも高い水準で推移しており、地域医療支援病院の要件を満たしているが、市民の立場から、この取組によってどのようなメリットが生まれているのか。専門医療へのアクセス向上や救急医療の充実など、市民が「地域医療支援病院になって良かった」と実感できる具体的な成果はあるのか。

A1：紹介率・逆紹介率が高水準で推移しており、当院と各クリニックとの連携が機能しているものと考えております。地域医療支援病院によるメリットやその成果としては、地域医療の中核病院として、必要なときに専門的な医療や高度医療を患者が受けられる点や、患者に対し病診連携を通じて切れ目ない医療を各クリニックとともに提供できている点だと考えております。

以上